

はじめに

このパンフレットは、新型コロナウイルス感染症(covid-19)などに関連した風評被害や、差別、いじめなどを防ぐために、大人の私たちが共有したい態度やふるまい方を簡単にまとめたものです。

参考になる情報のリンク先もまとめましたので、ご覧ください。

各地でワクチン接種が進んでいますが、感染者数はなかなか減りません。これまで学校や学童、保育所などでは、関係者によるあらゆる感染予防対策が懸命になされてきたことは、周知のとおりです。

心が揺らぎやすい新学期ですが、子どもたちが安心して学校や学童、地域で過ごせるよう、周囲の大人たちが協力することが、今は何よりも大切だと思います。

まだ、誰が感染してもおかしくない状況に変わりありません。このような時にこそ、他者への思いやりと労い。そうした言葉かけのできる大人たちが広く出会い、コロナ後の新しい地域の創造が生まれてくることを祈っています。

2021.9

八王子市社会福祉協議会学童保育課
管理アドバイザー 青木 紀久代

このパンフレットに関する問い合わせ先：

八王子市社会福祉協議会 学童保育課
学童保育相談員 臼井・王

E-mail : schoolchildren-care@hachioji-shakyo.com

参考リンク集

法務省（2021）「新型コロナウイルス感染症に関連して -差別や偏見をなくしましょう-」

https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html

日本赤十字社（2020）「ウイルスの次にやってくるもの」

<https://www.youtube.com/watch?v=rbNuikVDrN4>

日本赤十字社（2020）「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

<https://www.jrc.or.jp/saigai/news/pdf/211841aef10ec4c3614a0f659d2f1e2037c5268c.pdf>

文部科学省（2020）「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00122.html

福岡県（2021）「新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別をなくしましょう」

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/tad/asikureiseini.html>

いじめなどの被害、誹謗中傷のSOSの連絡先

みんなの人権110番

0570-003-110（平日8:30~17:15）

子どもの人権110番

0120-007-110（平日8:30~17:15）

女性の人権ホットライン

0570-070-810（平日8:30~17:15）

Telephone Counseling in Foreign-language

0570-090-911（Weekdays 9:00 through 17:00）

法務省インターネット人権相談受付窓口

<https://www.jinken.go.jp/>



新型コロナウイルス感染症

差別・偏見・いじめを
生まださないために
大人ができること

八王子市 社会福祉協議会学童保育課 監修



私たちが戦うべき相手は 人ではなくウイルスです

非常に強い感染力を持つ新型コロナウイルスの蔓延。ワクチン接種が進んでいない子どもたちへの感染が心配です。多くの家庭では、不安や恐怖に加えて、様々な生活上のストレスや不満も、強くなっています。

こんな時、溜まったものを抱えきれずに、誰かに怒りや不満をぶつけたくなることがあります。誰かを悪者に仕立てるような噂に振り回されたりするかもしれません。

自分を見失った軽率な振る舞いで、大切な誰かを傷つけてしまいたくありません。ほんの少し立ち止まって、いつもの心を取り戻せば、多くの人々の心を救うことだってできるのです。

新型コロナウイルスに関する偏見や差別、いじめがあってはならないものであることを、まずは大人がしっかりと自覚して、子どもたちの安心と安全な生活を守りましょう。



家庭でできること

<子どもに伝えること>

- 友達や先生など、身近な感染者をいたわる気持ちと言葉をかけること。
- 感染は、恥ずかしいことではない。誰が感染してもおかしくない状況にある。辛いことがあったらすぐに話してほしい。家族はいつも味方だと伝える。

<大人のマナーを守る>

大人の口ぶりに、子どもはすぐに影響されます。

- 不用意にコロナウイルスに関わる噂を拡散しない。
- 子どもの前で感染などを理由に他者を批判するような会話は慎む。
- 噂などからの判断で、子どもの友人関係に口出ししない。

学校や学童・地域で

- 一番つらいのは感染者です。子どもにも、大人にも、必要なのは、いたわりの言葉。
- 集団感染の経路を特定するのは、専門機関です。個人的な興味や先入観などから、断定できるものではありません。
- 誹謗中傷や不用意な言葉で他者を傷つけたり、脅かしたりしないことの啓発。
→感染したことを口にできない、具合が悪いと言えない雰囲気になっては、本末転倒です。
- 改めて、噂の拡大に加担しないマナーを啓発。
- 助け合いから生まれる保護者・関係機関・地域の方々との新しい絆

